

SO4P0096W001

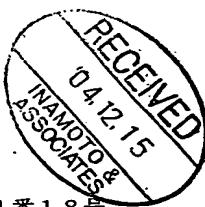
## 特許協力条約

発信人 日本国特許庁(国際予備審査機関)

出願人代理人  
稻本 義雄

あて名

〒 160-0023

東京都新宿区西新宿7丁目11番18号  
711ビルディング4階

様

PCT

国際予備審査機関の見解書  
(法第13条)  
[PCT規則66]発送日  
(日.月.年)

14.12.2004

応答期間

上記発送日から 2 月以内

出願人又は代理人  
の書類記号 754-S04P0096

国際出願番号

PCT/JP2004/000482

国際出願日

(日.月.年) 21.01.2004

優先日

(日.月.年) 21.01.2003

国際特許分類 (IPC) Int. C17 G02F1/133, G09G3/36, G09G3/20

出願人 (氏名又は名称)

ソニー株式会社

1.  国際調査機関の作成した見解書は、国際予備審査機関の見解書と  みなされる。  
 みなされない。

2. この 2 回目の見解書は、次の内容を含む。

- 第I欄 見解の基礎
- 第II欄 優先権
- 第III欄 新規性、進歩性又は産業上の利用可能性についての見解の不作成
- 第IV欄 発明の単一性の欠如
- 第V欄 法第13条 (PCT規則66.2(a)(ii)) に規定する新規性、進歩性又は産業上の利用可能性についての見解、それを裏付けるための文献及び説明
- 第VI欄 ある種の引用文献
- 第VII欄 国際出願の不備
- 第VIII欄 国際出願に対する意見

3. 出願人は、この見解書に応答することが求められる。

いつ?

上記応答期間を参照すること。この応答期間に間に合わないときは、出願人は、法第13条 (PCT規則66.2(e)) に規定するとおり、その期間の経過前に国際予備審査機関に期間延長を請求することができる。ただし、期間延長が認められるのは合理的な理由があり、かつスケジュールに余裕がある場合に限られることに注意されたい。

どのように?

法第13条 (PCT規則66.3) の規定に従い、答弁書及び必要な場合には、補正書を提出する。補正書の様式及び言語については、法施行規則第61条 (PCT規則66.8及び66.9) を参照すること。

なお

補正書を提出する追加の機会については、法施行規則第61条の2 (PCT規則66.4) を参照すること。補正書及び/又は答弁書の審査官による考慮については、PCT規則66.4の2を参照すること。審査官との非公式の連絡については、PCT規則66.6を参照すること。

応答がないときは、国際予備審査報告は、この見解書に基づき作成される。

4. 特許性に関する国際予備報告 (特許協力条約第2章) 作成の最終期限は、  
PCT規則69.2の規定により 22.05.2005 である。

名称及びあて先 日本国特許庁 (IPEA/JP) 郵便番号 100-8915 東京都千代田区霞が関三丁目4番3号	特許庁審査官 (権限のある職員) 山口 裕之	2 X	2913
	電話番号 03-3581-1101 内線 3293		

## 第I欄 見解の基礎

1. この見解書は、下記に示す場合を除くほか、国際出願の言語を基礎として作成された。

この見解書は、\_\_\_\_\_語による翻訳文を基礎とした。

それは、次の目的で提出された翻訳文の言語である。

PCT規則12.3及び23.1(b)にいう国際調査

PCT規則12.4にいう国際公開

PCT規則55.2又は55.3にいう国際予備審査

2. この見解書は下記の出願書類に基づいて作成された。(法第6条(PCT14条)の規定に基づく命令に応答するため提出された差替え用紙は、この見解書において「出願時」とする。)

出願時の国際出願書類

明細書

第 1-19	ページ、	出願時に提出されたもの
第 _____	ページ、	付けで国際予備審査機関が受理したもの
第 _____	ページ、	付けで国際予備審査機関が受理したもの

請求の範囲

第 _____	項、	出願時に提出されたもの
第 1-2, 5-10	項、	PCT19条の規定に基づき補正されたもの
第 _____	項、	付けで国際予備審査機関が受理したもの
第 _____	項、	付けで国際予備審査機関が受理したもの

図面

第 1-12	ページ/図、	出願時に提出されたもの
第 _____	ページ/図、	付けで国際予備審査機関が受理したもの
第 _____	ページ/図、	付けで国際予備審査機関が受理したもの

配列表又は関連するテーブル

配列表に関する補充欄を参照すること。

3.  指定により、下記の書類が削除された。

<input type="checkbox"/> 明細書	第 _____	ページ
<input checked="" type="checkbox"/> 請求の範囲	第 3-4	項
<input type="checkbox"/> 図面	第 _____	ページ/図
<input type="checkbox"/> 配列表 (具体的に記載すること)	_____	
<input type="checkbox"/> 配列表に関連するテーブル (具体的に記載すること)	_____	

4.  この見解書は、補充欄に示したように、補正が出願時における開示の範囲を超えてされたものと認められるので、その補正がされなかったものとして作成した。(PCT規則70.2(c))

<input type="checkbox"/> 明細書	第 _____	ページ
<input type="checkbox"/> 請求の範囲	第 _____	項
<input type="checkbox"/> 図面	第 _____	ページ/図
<input type="checkbox"/> 配列表 (具体的に記載すること)	_____	
<input type="checkbox"/> 配列表に関連するテーブル (具体的に記載すること)	_____	

第V欄 新規性、進歩性又は産業上の利用可能性についての法第13条（PCT規則66.2(a)(ii)）に定める見解、それを裏付ける文献及び説明

1. 見解

新規性 (N)	請求の範囲 1-2, 5-10 請求の範囲	有 無
進歩性 (I S)	請求の範囲 1-2, 5-10 請求の範囲	有 無
産業上の利用可能性 (I A)	請求の範囲 1-2, 5-10 請求の範囲	有 無

2. 文献及び説明

文献1 : J P 2001-228459 A (ミノルタ株式会社)

24. 08. 2001, 全文, 全図

文献2 : J P 11-44873 A (株式会社東芝)

16. 02. 1999, 全文, 全図

文献3 : J P 2000-2869 A (ミノルタ株式会社)

07. 01. 2000, 全文, 全図

文献4 : J P 2002-365608 A (富士ゼロックス株式会社)

18. 12. 2002, 全文, 全図

請求の範囲1～2, 5～10

請求の範囲1～2, 5～10に記載された発明は、国際調査報告で引用された文献1、および見解書で新たに引用した文献2～4より進歩性を有しない。

文献1（特に【0099】～【0106】、図12～13）には、電圧切換手段で、リセット期間（V1、GND）とそれより後の期間（V1/2、GND）とで、電圧を切り換えて供給する表示装置が記載されている。

文献2（特に【0020】～【0022】、【0038】～【0039】、図7）には、リセット電圧V<sub>r</sub>が最大書込電圧V<sub>max</sub>よりも大きい場合に、ドライバからの出力線と外部リセット回路からの出力線とを切り換えるスイッチング素子を備えることによって、ドライバの耐圧を低くした表示装置が記載されている。

なお、ドライバに0Vの基準電圧を印加することは技術常識であって、文献2に記載された発明においても、ドライバには0Vの基準電圧が印加されているものと認められる。そして、上記スイッチング素子を、基準電圧を切り換える手段とすることは、当業者が適宜実施しうる程度の設計的事項にすぎない。

ここで、文献1に記載された発明において、リセット電圧V1が最大書込電圧V1/2よりも大きいので、文献2に記載された発明のようなスイッチング素子を設けることによって、ドライバの耐圧を低くすることは、当業者であれば容易に想到し得たものである。

また、選択期間の電圧印加波形については、文献3（特に図7）、文献4（特に図3）を参照のこと。

## 第七欄 国際出願の不備

この国際出願の形式又は内容について、次の不備を発見した。

請求の範囲 9 には「請求の範囲第 6 項に記載の表示方法」と記載されているが、請求の範囲 6 は「液晶駆動回路」の発明である。

## 第Ⅷ欄 国際出願に対する意見

請求の範囲、明細書及び図面の明瞭性又は請求の範囲の明細書による十分な裏付についての意見を次に示す。

明細書には、「本発明は「コレステリック液晶を駆動するための低電圧駆動回路を実現できるようにするもの」（明細書第7頁第17～18行）であり、「本発明を適用した液晶駆動回路41を備える液晶表示装置においては、ロウドライバ53およびコラムドライバ52に求められる耐圧を、従来における場合のほぼ半分とすることが可能となる」（明細書第18頁第24～27行）旨が記載されている。

しかし、本発明の「駆動手段」（コラムドライバ52およびロウドライバ53）には、「基準電圧」（ $GND_s = -V_1 - V_2$  および  $GND_r = V_1 + V_2$ 、 $V_1 + V_2 > V_p$ ）が供給されている。したがって、ドライバには従来と同程度の耐圧が求められるので、低電圧駆動回路が実現しているとは認められない。

よって、明細書及び図面が明瞭に記載されていない。

